

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K11081

研究課題名（和文）プライマリケアナーシングの専門的役割の認識を向上させる教育プログラム開発

研究課題名（英文）Exploring educational program for specialisation of the primary health care nursing role

研究代表者

加古 まゆみ（KAKO, MAYUMI）

広島大学・医系科学研究科（保）・准教授

研究者番号：90347542

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：地域において、治療よりも個人の健康管理、疾患予防や管理を支援するプライマリケアは、この役割を担うことができ、超高齢化社会の日本には必要なケアシステムである。本研究は、日本国内において、プライマリケア実践を看護師教育カリキュラムで教育するために、そのケア先進国である豪州をはじめとする5か国での実践をオンラインアンケート、インタビュー調査を実施した。対象国では、普段の医療制度がプライマリケアの上に成り立っており看護教育もそれを前提に実施されていた。国内では、診療所をはじめとした施設においてプライマリケア看護という言葉自体、浸透しておらず、カリキュラムでの位置づけを明らかにすることが必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

プライマリケア看護に関する先行研究は、診療所での看護師の役割を明らかにした研究はあるが、看護基礎教育カリキュラムまで言及している研究はない。プライマリケア看護先進国における、該当教科目の看護基礎教育の中での位置づけは、日本と同様に、高齢化社会における地域での看護師の役割が、カリキュラム教科の中で明確に示されていた。日本国内では、プライマリケア看護という言葉自体、浸透していない。現在、診療所看護師などプライマリケア実践に携わる看護職はいるが、今後、プライマリケア看護実践の効果を学術的に評価するとともに、国内での看護基礎教育や地域における看護師の役割を新たに示唆できる成果が得られた。

研究成果の概要（英文）：Primary care, which supports personal health care and disease prevention and management rather than treatment in the community, can play this role and is a necessary care system for Japan's super-aging society. In order to educate nurses in Japan about primary care practice in the nursing education curriculum, this study conducted an online questionnaire and interview survey of practice in five countries, including Australia, which is an advanced country in this care. In the target countries, the usual healthcare system was based on primary care, and nursing education was conducted on this premise. In Japan, the term "primary care nursing" itself is not widely used in clinics and other facilities, and it is necessary to clarify its position in the curriculum.

研究分野：地域看護

キーワード：プライマリ・ケア 看護基礎教育 カリキュラム 実践 役割

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の看護学教育カリキュラムにおける、プライマリケアナースィング(PCN)の位置づけはいまだ不明瞭である。超高齢化社会の対応で、病院医療から地域医療へのシフトが進んでいる。総合診療専門医の導入により、地域で包括的医療モデルが展開され、治療よりも予防や疾患管理に重点を置いたプライマリケア(PC)実践は浸透し始めている。診療所看護師は、PCの中でPCNを実践する専門職である。しかし、歴史的背景にある看護婦(師)養成に基づいた訓練・教育制度や、少人数の組織文化での役割と能力の不明確さ、継続教育・キャリアラダーなどの機会が不明瞭、そして、看護師の看護行為の経済的評価と効果が社会の中では、十分に認識されていないという課題を、現在も残したままにしている。本研究は、PCN先進国の豪州の看護学教育におけるPCN領域と、社会で専門的役割の確立を果たした診療所看護師の軌跡を考察し、まずは本邦でのPCNの社会的認識と役割の確立を促進させることができるような看護教育学カリキュラムの探求を行う。PCNの社会での認識を進めてゆくため、PCNの実践の場、専門職・学術団体、大学そして関連政府部門との包括的アプローチを活用しながら、学術界への情報共有を行ってゆく。本研究の展望は、新たな看護学カリキュラムにおいて、PCNの位置づけを明確にし、包括的アプローチの一端としての教育研究実践システムの構築を促進することにある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、本邦の看護学教育カリキュラム(卒後看護教育も含める)におけるPCN概念の位置づけの明確化である。これにより、領域確立への手がかりを提案し、その結果、PCNの社会的認識の向上をもたらす包括的アプローチの一端を担う。学術的独自性は、看護学カリキュラムにおいて、「PCN概念の領域としての不明瞭さ」を考慮すると、例えば、地域保健の中でのPCの概念は取り扱われているが、看護との接点は見ない。本研究は、新たにPCと看護との近隣性や類似性を追求しながら、PCNの役割を究明する。創造性は、本研究により、新たな看護学カリキュラム(学部教育や卒後継続教育)において、PCNが社会的に果たす役割を担うために必要な包括的な教育研究実践システムの構築を促進できることにある。

3. 研究の方法

1. 豪州大学へのオンライン・聞き取り調査。学部教育は、ウェブサイトから豪国の全看護学部(38校)の中で、PCN科目開設がある大学に対し、オンライン質問調査を実施。調査内容はPCN科目のカリキュラムの中の位置づけ(年次、独立科目、実習との連携など)、目標、実施形態(理論、または理論と演習・実習が連携)、評価方法(エッセイ課題、オンラインを駆使したアセスメント方法、コンピテンシーを用いた評価など)を含めた。回答を得た大学の中から任意で、聞き取りも参加できる大学を、調査中に募集を同時に行い、オンライン調査結果を基にPCN科目設置の背景、他科目との関連性、学生のPCNに関する学習理解に関する意見などの聞き取りを、研究代表者がオンラインにて、科目担当教員に実施した。卒後教育は、聞き取りの了承を得た9人のPCN教育に関わる大学院科目担当教員への聞き取りを豪州で研究代表者が行った。内容は、専門職・学術団体での教育担当者(豪州PCN協会)と同様に、卒後教育の組み立てと看護師免許登録維持との関連・連携や、プログラム種類、PCN領域必須科目とその背景、プログラム提供方法・フィードバック方法、卒後教育に関して大学など教育研究機関との連携の有無を関連させて、現在の課題や今後の方向性も含めて行った。

2. 結果分析・考察にてPCN位置づけ提案の合意形成を行った。同時に、学部レベルでのコンピ

テンシー項目(2018年版)を照会しながら、本邦でのカリキュラム内での位置づけへの提案に向けた合意形成を行った。

3. 研究結果の全体像を統括。領域のエキスパートからのコメント、提言を基に分析結果をまとめ、日本 PC 連合学会や看護学教育学学会などの学术界での情報共有を行い、看護基礎教育・卒後継続教育カリキュラムへの PC/PNC 概念の導入の可能性のダイアログを開始する。

4. 研究成果

プライマリケア看護に関する先行研究は、診療所での看護師の役割を明らかにした研究はあるが、看護基礎教育カリキュラムまで言及している研究はない。プライマリケア看護先進国における、該当教科目の看護基礎教育の中での位置づけは、日本と同様に、高齢化社会における地域での看護師の役割が、カリキュラム教科の中で明確に示されていた。日本国内では、プライマリケア看護という言葉自体、浸透していない。現在、診療所看護師などプライマリケア実践に携わる看護職はいるが、まだ認知度は高くなく、その役割や機能は十分に生かし切れているとはいえない。今後、プライマリケア看護実践の効果を学術的に評価することともに、国内での看護基礎教育や地域における看護師の役割を新たに示唆できる成果が得られた。本研究の成果は、日本プライマリケア連合学会、日本看護科学学会での口頭発表と共に、英文査読雑誌に2論文が受理された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kako, Mayumi Moriyama, Michiko Mizukawa, Mariko	4. 巻 2
2. 論文標題 Exploring educational program for specialisation of the primary care nursing role	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 19-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21820/23987073.2023.2.19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加古まゆみ
2. 発表標題 プライマリケアナーシングの看護学基礎教育課程における位置づけ 豪州における質問調査結果より
3. 学会等名 第 13 回日本プライマリ・ケア学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加古まゆみ
2. 発表標題 世界と日本の動向・プライマリ・ケアの看護基礎カリキュラム
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水川 真理子 (Mizukawa Mariko) (50863742)	神戸市看護大学・未登録・特任教員 (24505)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	森山 美知子 (Michiko Moriyama) (80264977)	広島大学・医系科学研究科(保)・教授 (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関